

《第11回飯倉駅前地区まちづくり協議会 議事録》

日付	平成29年3月4日(土)	15:30~16:40	晴れ	書記	浦田
出席者	委員	井上 峰夫(会長)、野澤 善一郎、鈴木 弘、柴田 実(監事代理)			
		加瀬 功一(副会長)、平山 瑞子(監事)、松本 理			
	匝瑳市役所	企画課長 太田 和利、まちづくり戦略室長 林 雅之			
	事務局	江波戸、鈴木(九十九里ホーム) 西方、浦田(ミサワホーム)			
<発言者>	<内容>				
	・開会挨拶				
井上会長	<p>大変お疲れさまでした。今日の松田先生のお話を聞いて、私どもがやっている飯倉駅前地区まちづくりとよくあっているなと思いました。私としても大変勇気をいただきました。今日の協議会では、我々が今までやってきたことの活動報告を仕上げ、そしてその活動報告を基にして事業計画案を仕上げなければならない。この協議会も今日が第11回、もう一度18日に第12回を行い、一応の一区切りとなります。是非、委員の皆様方に、忌憚のないご意見をお願いし、報告書、計画案をきちんとしたものにしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。</p>				
事務局	配布資料：平成28年度 飯倉駅前地区まちづくり協議会 活動報告書(案)、事業計画案				
	1. 事業計画案				
	I. 事業地概要				P1~4
	II. テーマ				P4~5
	・東京都をはじめとする都市部からの移住定住の促進と地域包括ケアシステムの実現				
	III. コンセプト				P5~6
	・子供から高齢者まで、あらゆる人々を地域・多世代交流・協働で支えるまち				
	IV. 目標				P6~8
	1:健康長寿・生涯活躍の場を作る2:人が集まる場・仕組みを作る3:地域の日常生活を支える				
	V. 事業内容				P8~13
	A. 子育てゾーン B. まちなか居住ゾーン C. 高齢者福祉ゾーン D. 交流ゾーン				
	VI. 全体スケジュール				P13~14
	2. 平成28年度 飯倉駅前地区まちづくり協議会 活動報告書(案)				
	・はじめに				P1
	・飯倉駅前地区まちづくり協議会について				P2
	・協議会活動内容について				P3~12
	・事業計画案について				P12~17
	・おわりに				P17

	・講演会の感想
A委員	貴重な講演を拝聴させていただき、ありがとうございました。初めて国の介護の実情、何が40兆円かと思ったが、介護に使うのが40兆円、国の税収が55兆円と、7割超を介護に使っていると知って驚いた。また、今日のテーマ「ピンチをチャンスに変える」という点も、大変参考になった。
B委員	日本版CCRCとの言葉が難しいと思っていたが、今日の説明の中で「大学連携型CCRC」「趣味型CCRC」等身近に感じられて解りやすかった。
C委員	今までの部分的な知識がまとまって、税金の話などもすごく勉強になった。元気な方、若い方が来ることでこれだけの経済効果があることや、PR部分をどうしたら良いか等、頭に入った。先ほど会長がおっしゃったように、ここの部分は自分達もやってきた、ここの部分はまだ足りない等、すっきり頭に入ってきたので良かった。
D委員	大変参考になった。「介護にさせないこと」が今まで発想に無く、介護保険を頼らずにやっていくものができるれば良いと思った。定期預金など、銀行の話も参考になった。色々な発想や想像をしながらやっていければと思った。
E委員	立派な施設や構想が進んでいっても、どういう人が来てくれるのか、情報発信していくのが大切。今後、施設は作った人がいないというのでは困る。経営の観点も含め、大規模なPR予算も組めないで、行政の協力を得ながら匠瑳市の魅力を発信していく有効な手立てを考える必要がある。講演中、〇〇ビレッジと名前を考えるのがあったが、これはきわめて重要。名前が決まるとそれがどういう施設なのか決まるので仮称でも必要では。そろそろ呼称を考える必要があるのでは。ちょうど良い機会である。
F委員	非常に勉強になった。改めてCCRCについて勉強になった。1年近くやってきたが、人が都心に出て行かなくて、逆に都心から来てもらうためにはどうしたら良いのか、町の魅力、ここに来たくなるような何かを作っていないといけない。それは物でも考え方も、他がやっていない事を始めること。他の地方も色々考えているのでそういうことがないといけない。匠瑳市のいいところは何か、と質問があったが、私も頭の中でなかなか出てこない。物でなくても、こういう取組をやっているとかでも良いのでは。
事務局	ネーミングは大切。ロゴマーク、PR活動等とも関連するので今後の協議会の中でしっかり考えていったほうが良いと思う。
	・事業計画案について
A委員	事業計画案については良いと思う。
B委員	同じく、良いと思う。
C委員	建物の高さ等はおよそどのくらいか。他に説明するときにイメージとして掴みたい。

事務局	大まかなイメージですが、こども園は2階建て、特養は3階建て、交流ゾーンも2階建て。まちなかゾーンは未定。
C委員	各ゾーンの建物は行き来できるのか、靴をはかないで行き来できるか。 また、サ高住の年齢を50歳に下げたのはいいと思う。
事務局	歩いて行き来はできるが、間に車路がある。靴を履かずに行き来できるのは良いと思うので、今後設計の段階で反映していただく。
D委員	事業計画案として良いと思う。
E委員	飯倉台も含めたエリアの事業計画案なので良いと思うが、地域全体を巻き込んだ記述があって良いのでは。 サ高住は働ける50歳からの人が住み、飯倉台の空き家の利用や、リノベーションなど、まちづくりの中での位置づけも、記述としてあったほうが膨らみが出るのでは。
F委員	この計画案を読むと、オーシャンマートの跡地をどうするかに絞り込まれている。これから時間をかけて、飯倉台や駅前、あかしあ幼稚園の所をどうするか等を含めた広い意味があることを、事業計画の冒頭にでも入れて欲しい。また先ほどのC委員の、自由に行き来できたらとの意見も含めて、これから計画を煮詰めていただきたい半面、四つのゾーンの中で交流ゾーンは比較的外部の方が自由に入ってくる。それがどこでも自由に行ける、こども園まで入ってこられるとなると問題である。セキュリティーも含めた計画にしておかないと、今のご時勢、幼稚園も小学校も授業中は門を閉めている。便利で非常に良い反面、防犯等もおさえて、これからやっていただければと思う。
井上会長	自由に行き来できるかとの意見については、現実的には難しい。何度か幼稚園のお母様方とこども園について話したことがあるが、お母様方の感覚は、安全についてフェンスでどこまで囲ってくれるのか、との意見が出たほど。もう一つは、近隣に遊休農地がかなりある。農業、土をいじることによる認知症予防効果、介護予防の効果が評価されている。こういった面も加えたほうが良い。また、この書き方のままだと、九十九里ホームがオーシャンマート跡地で何かやってるだけになってしまうので、もっと色々巻き込んでやっていく。工事が始まるので、近隣説明をさせていただいたとき、気をつけないといけないと思ったのが交流ゾーンの作り方。車の流れなど、計画によっては危険になってしまう。市やJRとも相談しながらやると答えた。建物の高さについても気にされており、電波障害や日影にならないかとの意見が出ていた。地元の方のことを考えてやっていくと答えた。赤道の整備についての声もあった。人が増えることによるゴミ問題をどう考えているか等の意見もあった。色々な声が聞けてよかった。
E委員	九十九里ホームが単独でやる事業ではなく、先日、行政より地域再生計画の「生涯活躍のまち」形成事業計画の中で九十九里ホームを、「地域再生推進法人」として市が指定するとあったが、協議会のオブザーバーとして来ていただいているが、行政と一緒にやっていくと書けないのか。一民間企業が匠瑤市のまちづくりのために主体的に行き、行政がそれをフォローする。今までこんな事は無かったはず。そういったことをにじませる様に書けないのか。
匠瑤市	昨年、市民協働のまちづくりとして、匠瑤市の市民協働指針を作りましたが、今やっている事はまさに協働、行政だけでなく、市民だけでなく、事業者だけでもない、みんなが一体になって取り組んでいく。雇用の創出が我々が持っているテーマ。今回のCCRCについても負のイメージが強かったが先ほどの松田先生の話聞けばそうではない事がわかったと思うが、これからの日本を考えていくと、日本は課題先進国であり、世界で一番

